

「麻酔方法が術後摂食に与える影響」へのご協力をお願い

2011年1月1日から12月31日までに当院の産婦人科、乳腺外科で全身麻酔下に手術をお受けになられた患者さんを対象として「麻酔方法が術後摂食に与える影響」を検討させていただきます。研究は高知大学医学部倫理委員会の承認を得て行います。

<研究の目的>

現在、手術後早期の経口摂取の必要性が指摘されています。しかし、一般的に女性の患者さんは術後の吐き気や嘔吐が多いことが知られています。この症状があった場合、経口摂取が難しくなります。もし麻酔方法の違いにより、この症状に差があるのであれば、今後の患者さんの麻酔方法の選択に大きく貢献することが期待されます。

<研究の方法>

2011年1月1日から12月31日までに当院の産婦人科、乳腺外科で全身麻酔下に手術をお受けになられた患者さんを対象といたします。麻酔方法と術後の摂食再開の時期などを電子カルテから集積します。

<個人情報の保護>

今回の研究では、年齢、身長、体重など必要な医療情報以外の個人情報は電子カルテから記録することはありません。また電子カルテから抽出した情報は、パスワードでロックされた媒体に保存します。そして本研究終了後、すべての情報は破棄します。

<お問い合わせ>

本研究に関してお問い合わせがありましたら、

研究責任者： 矢田部智昭（高知大学医学部附属病院麻酔科・助教）

電話：088-880-2471（直通） FAX：088-880-2475

までお願いいたします。